

師団長式辞（抜粋）

「戦う？ 13.2%」

今年の師団祭のテーマは、「戦う？ 13.2%」。世界価値観調査から引用しました。世界価値観調査の問いの一つに「もし戦争が起こったらあなたは国のために戦いますか？」という問いがあり、戦うと答えた日本人は13.2%で世界79カ国中最低でした。ウクライナが59.6%。ロシアが68.2%。中国が88.6%。最高はベトナムで96.4%であり、日本人の13.2%は、群を抜いて低い数値でした。我が国周辺国は、この数字を見てどのように感じるでしょうか？「侵略しても抵抗しないんじゃないか？」と勘違いするのではないのでしょうか？日本が戦争に巻き込まれると日本国内が戦場となり、一般市民の命が失われることが懸念されます。絶対に「抑止」しなければなりません。「抑止」とは他国から戦争を仕掛けられないようにすることです。下手に手を出すと痛い目にあうと分からせるということです。戦争とは国と国との総合力による争いです。第一線で戦う自衛官だけでは、侵略戦争には勝てません。政治や外交、自衛隊の作戦行動を支えるには、国家の財政基盤が維持されなければなりません。そのためには経済活動が重要です。多くの国民が国内にとどまり、ライフラインや食料、エネルギーを維持し、政治・経済・外交活動を支え自衛隊が防衛作戦を遂行していく。すなわち国民一人ひとりにとって戦うとは、自分にできることで国に貢献すること。簡単に言えば「普段の仕事をしっかり続ける事」なのです。

内閣府が行っている自衛隊・防衛問題に関する世論調査に「もし日本が侵略された場合にあなたはどうしますか？」という問いがありますが、自衛隊に志願すると答えた方が4.7%。何らかの方法で自衛隊を支援すると答えた方が51.1%。武力によらない抵抗をすると答えた方が17%。これを合計すると、約75%の方が何らかの方法で侵略に抵抗すると答えられています。この75%という数字と、世界価値観調査で国のために戦うと答えた13.2%の数字との差異は何を意味しているのでしょうか？ウクライナで実際に戦闘している軍隊は、約100万人と言われておりますが、人口4380万人の約2.3%です。侵攻したロシア軍は290万人と言われておりますが、人口1億4000万人の約2%です。「戦う」の意味が銃を持って戦闘するということであれば、戦うという回答が数%もあれば戦場で戦う戦闘員が不足することはないともいえます。それなのに何故世界の各国では、「戦うか？」という問いに対して、あんなに高い数字を出しているのでしょうか？つまりこれは、内閣府が行った世論調査で何らかの方法で自衛隊を支援すると答えた51.1%の方や、武力によらない抵抗をすると答えた17%の方も、他国の人々においては、これらがすべて祖国を守るために不可欠な行為として「戦う」と答えていると思うのです。

我が国を守る為には、自衛隊が強くなければならない事が当然ですが、祖国を守る意志を相手国に示すこと、認識させる事も不可欠と考えます。世界価値観調査の次回調査が今年から3年間で行われることとなりました。ご来場の皆様の中にも世界価値観調査の対象となる方がいるかもしれません。そこでの回答の結果が祖国を守る国民の意志の表れとして、引いては我が国の「抑止」に繋がるものと思うのです。